

重いどか雪で中山間地中心に倒木、停電 停電は最長で58時間余のところも

先週14日から降った雪は、最高積雪が牧区棚広新田で285㌢、安塚区須川で245㌢、大島区菖蒲で208㌢、吉川区下川谷で145㌢にもなりました。



吉川区尾神（蜚場）



吉川区坪野

今回は重い初雪で、しかもどーんと降ったことから、安塚、浦川原、大島、吉川などの中山間地を中心に倒木などによる停電、通行止めが相次ぎました。特に18日早朝からの停電は近年になく長時間に及び、一番長いところでは58時間半ほどになりました。

私は19日、吉川区、浦川原区の山間部をまわり、高齢者世帯を中心に住民の皆さんの声をお聞きしました。そこでは、「役場んしょ（総合事務所職員）がストーブ足らんかねかと心配してくれて嬉しかった」「町内会長さんが様子見にきてくんかった」「近所の人、窓のあ

かり、とってくださって、助かった」「コタツに湯たんぽ、いくつも入れて、潜っている」「水が出ないのでペットボトルの水を使っている」「普段は電気で料理している（IH）がダメなので、急ぎょ、ガスを使って料理をしている。灯油のストーブなくせないね」「停電も3日目となるときついな。限界だ」などたくさんの声を寄せてもらいました。

電線がらみの倒木は東北電力が総力をあげて対応していましたが、手がまわらない状態となっていました。長時間の通行止め、停電とも地域の生活に直接響く問題です。住民の皆さんの生の声は総合事務所などにつなぎましたが、今回のような事態については、単なる一地域の雪害にとどめず、災害救助として位置付けて対応してほしいと思いました。

※各地の被害状況写真は私のホームページ、フェイスブックに載せていますのでごらんください。



浦川原区上猪子田



【ビワ】バラ科の常緑高木。九州や四国など比較的温暖なところに多く植えられていますが、上越市内でも育ちます。花は晩秋から2月頃まで。少し甘い香りを漂わせながら白い花を咲かせます。花言葉は「密かな告白」「治癒」。黄色い実がなるのは6月頃です。牛飼いをしていた頃、ビワの葉エキスをつくり熱さましの薬として活用しました。写真は12月13日、吉川区神田町にて撮影しました。

こんなときだからこそ、 ほっとコンサート

20日、恒例の「ほっとコンサート」が吉川多目的集會場で行われました。私も所属している「夢をかなえる会」が新型コロナウイルスの対策を講じながら、「こんな時だから

こそ、心温まるコンサートを、そういった思いの中で開催しました。吉川中学校吹奏楽部は少数でしたが、先生も加わって元気に「パプリカ」、「糸」



などを演奏してくれました。クレアの二人の歌は頸北から上越全域に広がっています。今回も「糸」や「いのちの理由」などを見事に歌い上げてくれました。平田さん、平山さんの歌唱力、見事でした。そしてピアノも「雪国」「京都の恋」などを歌いました。こちらも素敵なお歌声でした。そのなかでも、柏崎市在住の73歳の男性が18歳のときに作曲したという「あまだれ」が特に心に響きました。名曲だと思います。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1991 2020.12.27
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六三八回 カレーの匂い

上越市には、意外と知られていない素敵な風景があります。それはカレーの匂いの風景です。歩いているときは勿論、窓を開けていけば、家の中にも入ってきます。

火曜日の午後三時過ぎのことでした。市役所での仕事が一段落し、家に帰ろうとしたときです。東口玄関から駐車場へつながる階段で、カレー粉とはつきりわかる匂いがただよってきました。

匂いは見えるはずがないのに、私はすぐに空を見上げました。駐車場のそばの木の上方から匂いが舞い降りてくるように思えたのです。

匂いの出どころは、上越市寺にあるエスビーガーリック食品(株)高田工場です。詳しいことはわかりませんが、たぶん、同社の赤缶カレー粉を製造している日に風に乗って、風下の方に匂いがただよったのだと思います。

このカレー粉の匂いのことを初めて知ったのは、一五年前、上越市役所に通い始めてまもなくでした。大目付近を車で走っていたときに突然、車の中に入り込んできたのです。びっくりしました。匂いはすぐにわかりました。子どもの頃から知っている大好きな匂いだったからです。

申し訳ないことですが、私はその時までエスビーガーリックの工場が上越市にあることを知りませんでした。カレー粉の匂いがただよぶことを知った私は、その後もう年に二回や三回はカレー粉の匂いがただよぶなかを歩いたり、車で移動したりしていました。風の状態によりけりなのでしょうが、遠いところでは直江津の石橋付近で匂いを感じたこともありました。

私がカレー粉の匂いに出合ったのは、わが家が吉川区の尾神にあったころ、それも一九五〇年代です。もちろん、私は子どもで、小学校に通い始めた頃だと思えます。母が流し(台所)でカレーを作るときに

は、必ずと言ってよいほどカレー粉の匂いが居間の中までただよってきました。

当時、いまのような固形のカレールーはなく、赤い缶の中に入ったエスビーガーリックのカレー粉はカレーづくりに欠かせないものでした。母はフライパンで小麦粉を炒め、カレー粉をねり合わせてカレールーを作っていました。この段階でもう匂いはふわふわと私たち兄弟のいるところに届いていました。カレールーができると、それにサバの缶詰、鍋で煮たニンジンなどを入れて出来上がりでした。

わが家でカレーの中に肉が入ったのは、当時、年に一、二回です。年の暮れに祖父、音治郎がニワトリを一羽しめて肉にしたときと、わなをかけて捕ったウサギの肉を手に入れたときくらいでした。

母が作ったライスカレーは、私も弟たちも大好きでした。ただ、カレーが入った鍋はそう大きくはありませんでした。カレーがすっかりなくなると、私たちは皿についたカレーを舌できれいになめていました。

最近、調べてわかったことですが、わが家にもあったエスビーガーリックの赤缶カレー粉の製造開始は一九五〇年です。いまから、七〇年前です。そして、「ところけるカレー」のような固形ルーが発売されるようになったのは一九六〇年代です。だから、赤缶カレー粉の全盛時代は一〇年から一五年間くらいだったと思えます。

ライスカレーは母の得意料理の一つでした。イトコたちがお盆泊まりにやってくる時、母は必ず一度はライスカレーを作っているまっています。

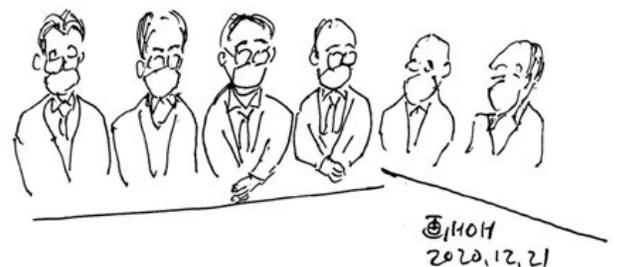
市役所駐車場でカレー粉の匂いがただよってきたときに思い出したのは母のことです。数日前に会ったばかりなのに、なぜかまた会いたくなりました。この日は介護施設で窓越しの面会でしたが、母は笑みを浮かべ、盛んに手を振ってくれました。

「県立の病院として存続を」来月、要請へ

県立柿崎病院後援会の理事会が21日開催されました。

今回の議題は県への要望書についてです。事務局案をもとに議論の結果、柿崎病院を県立の住民密着型の地域拠点病院として存続するよう求めることが決まりました。

来月、後援会幹部が県庁へ行き、花角県知事や藤山病院局長などに要請する予定です。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月16日(水)	12月23日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.073	0.070
東頸消防署	0.043	0.050
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.057	0.060

吉川区の福寿荘、来年4月に市社協へ譲渡の見通し

17日の吉川区地域協議会で、公の施設の「適正配置」の対象の一つとなっている原文町の「福寿荘」(写真下)が計画案よりも1年早い、来年4月1日にも上越市社会福祉協議会へ無償譲渡される見通しであることが報告されました。



4日の市議会総務常任委員会の資料では「令和4年度に貸付または譲渡」となっていたのが、2週間後には「譲渡で合意し、しかも1年前倒しされる」という報告です。すから、びっくりでした。